



高松信用金庫・理事長

大橋 和夫さん

日進堂グループ・社長

× 喜久山 知哉さん

「たかしんリーダーズクラブ」が本格始動

本音で話し、学び、会員が成長できる会を目指したい

次世代の経営者たちを中心にした「たかしんリーダーズクラブ」が2023年4月に発足。同年9月には発足式を行い、2024年にいよいよ本格始動します。

そこで、特別顧問を務める高松信用金庫・大橋和夫理事長と、会長に就任した日進堂グループ・喜久山知哉社長に立ち上げへの想い、今後の活動などについてお話を伺いました。

たかしんリーダーズクラブとは

地域に根差した事業活動を行う企業が会員となり、「出会い」と「学び」を通して経営者としての資質向上、企業の発展、地域活性化を目的として設立。会員の声を聞いた上で、経営課題に応じた年10回以上のセミナー、講演会、ビジネスマッチングなどのイベントも実施する予定。

Webサービスとしては、ホームページ作成、補助金・助成金情報配信、ビジネス文書約2500種ダウンロードなども。自社の経営課題を登録すると、ニーズに合った会員企業の商品やサービスがレコメンドされるなど、内容が充実している。

リーダーズクラブ立ち上げへの想いは。

大橋理事長(以下、大) 実は20年ほど前にも経営者の会を立ち上げていたのですが、年月を重ねる中で我々からの一方通行の発信になってしまった面がありました。そこで、本当に会員のためになっているのかという視点で、ゼロから見直すというのが出発点でした。

変化する社会に対応するためには新たな経営のあり方を模索しないといけない。そういう意味で、次世代を引っ張る経営者たちを中心に、お互いに意見を言い合える会にしたい。会員の中から会長をお願いしたのもそういう理由です。新たな取り組みを進めながら事業を発展させている若手経営者の一人である喜久山社長に、ぜひともお願いしました。

喜久山社長(以下、喜) 最初はとまどいましたが、理事長の熱い想いを伺い受けました。

様々な会で経営者が集まる機会は比較的多いですが、大勢が集まるとなかなか意見交換がしづらい。そこで、リーダーズクラブは県内を6つのエリアに分け、各地域のリーダーがリーダーズクラブの副会長となります。6人の副会長を中心にそれぞれの地域で、少人数で密に連携しながら活発に意見交換する。そこから生まれたアイデアや学びを全体で共有しながら進めていきたいと考えています。

たかしんが事務局となって運営する意義をどう捉えていますか。



喜 たかしんの取引先である製造業、建設、不動産、飲食、サービス業など、様々な業種の企業が会員として参加しているという意義は大きい。発足会などで副会長たちと少しですがお話をする機会があり「変化する社会に対応するためにも、業種を越えたつながりがほしい」「ビジネスマッチングがしたい」という声も上がっていると聞きました。

私自身は建設業ですが、お客様には様々な業種の方がいらっしゃるの、幅広い知識が必要だと実感しています。経営者として成長するには、成功するための考え方、リーダーシップのあり方など様々な話を聞いて自身の糧にすることも重要です。だからこそ、会員の皆さんが積極的に意見を言い合える雰囲気になりたいと思います。

大 主役はあくまで会員企業の皆さん。その中で、会員の中から「他県のこういう事例を視察に行きたい」という声があれば、全国の信用金庫のネットワークを活かしてつなぐことができるのは強みです。

今後はどのような活動を予定していますか。

喜 まずは3月にエリアごとの会を予定しています。気心が知れてからでないと本音で意見や悩みを言いづらい面もあるので、定期的に集まる体制を整えながら会員同士の信頼関係を築き、活動を実体のあるものになりたい。イベントを企画するなど、会員に絶えず何かの「案内」ができるような形が理想です。

また、会員は地域に根差した企業ばかり。自分たちの会社が成長するだけでなく、会社の成長を通して地域に貢献したいという想いを皆さん持っていると思います。この会が地域にどう貢献できるかという視点でも、活動のあり方を考えたいですね。

大 その視点は「地域の発展なくして我々の未来はない」というたかしんの理念にもつながります。会員全体で脱炭素やSDGsを進めたり、県外進学者向けに合同企業説明会を開いたりと展開はいろいろ考えられるので、会への期待は大きいです。

喜 会員の皆さんからも様々なアイデアが出てくる。それをスピード感をもって実行していきたいと思います。